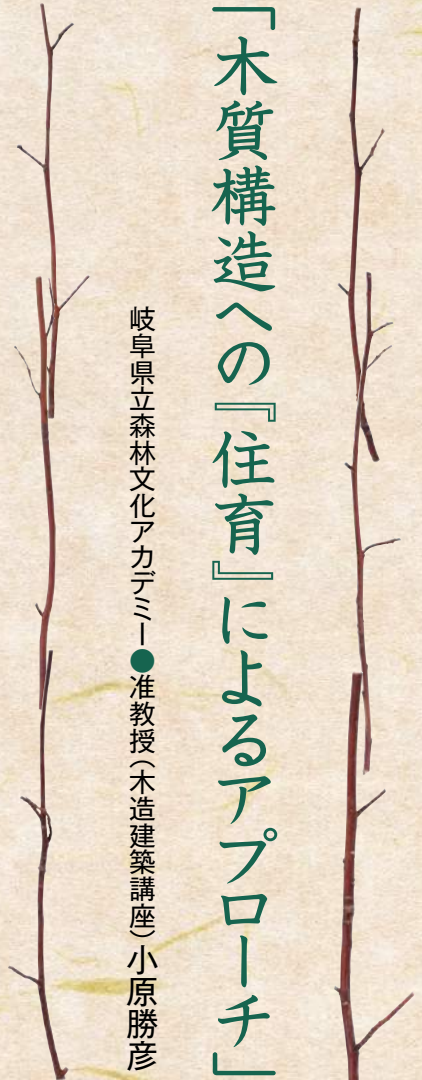


● 住育とは

住まいやまちで安全に、安心して暮らしたいという思いや願いを「かたち」にし、住まいを文化として慈しむ価値観を育て、住生活や住環境をより豊かに魅力的につくりあげていくための教育です。日々の暮らしの中で、暮らしの体験から気づき、感じることで、多様な人達との関わりを通じて学ぶことが住育の魅力です。住育の目的は、①自分の暮らしをデザインできる人を育てること、②知識を教えるのではなく、知識を活用する力、自ら考える力を養うこと、です。住育には以下に掲げる4つの領域があります。①人とすまい(住まいの安全・安心、家族の語りやくつろぎ・団らんなど、住まいの機能や構造、生活との関係を学習します。)、②住まいの空間と構成(人が住む器は、人体寸法が基本で

「木質構造への『住育』によるアプローチ」

岐阜県立森林文化アカデミー ● 准教授(木造建築講座) 小原勝彦



す。それに動作空間が加わること、部屋と部屋をつなぐ原理があることなど、暮らしに対応した住まいの空間や構成を学習します。)、③住まいと社会(住生活

に必要なライフライン、地域の中での住まい、まちの良好な景観など、住まいと社会のつながりを学習します。)、④住まいと環境(気候風土と住まい・住文化、



写真 木質構造系科目における住育による活動

環境と共生する住まい、そして住まいの維持管理のあり方を学習します。)

● 住育による活動

森林文化アカデミー木造建築講座の私が担当している木質構造系科目内では、都市部の子どもたちへの住育を通じて、森林文化アカデミーの学生が住育による活動を学びます。この学びの場は「公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター」さんと連携して実施している「だがねランド」で実践しています。「だがねランド」では子どもたちが建物をつくり、まちを構成して、都市計画や都市利用を学びます。この中で、子どもたちが建物を企画して、設計して、木材を利用して建設することを、森林文化アカデミーの学生はサポートします。木造建築の仕組みや建築で利用する道具(のこぎり、げんのう、さしがね、インパクトドライバなど)の使い方などを子どもたちに教えることもしています。住育による活動を通じて、学生たちは子どもたちに教えることで自分たちも木質構造を学ぶことができます。この頃の頃から木造建築に興味を持ち、『木質構造設計』を学びたいという子どもたちを増やすことが、岐阜県産木材の構造成材としての有効活用につながるでしょう。